

平成15年7月11日

水産庁

独立行政法人水産総合研究センター

北海道区水産研究所

平成15年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2003年7月~9月)

常磐~北海道東部までの北部太平洋海域における
スルメイカの来遊水準は2002年を下回る

2003年7月~9月の来遊見通し

常磐~三陸海域: 2002年並みか、やや下回る

魚体は20~23 cmが主体

大畑~北海道南部海域: 2002年を下回り、1998年を上回る

魚体は19~22cmが主体

北海道東部~根室海峡周辺海域: 2002年並み

魚体は20~22cmが主体

1. 本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>) に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。

水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当: 竹葉・狭間

住所: 〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話: 03-3502-8111 (内線7376) 03-3501-5098 (直通)

ファックス: 03-3592-0759

電子メール: toru_hazama@nm.maff.go.jp

水産総合研究センター 北海道区水産研究所 企画連絡室

住所: 〒085-0802 北海道釧路市桂恋116番地

電話: 0154-92-1701 0154-92-1715

ファックス: 0154-91-9355

電子メール: kiren@hnf.affrc.go.jp

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	高知県水産試験場
北海道立函館水産試験場	(社)漁業情報サービスセンター
青森県水産総合研究センター	水産庁
岩手県水産技術センター	独立行政法人水産総合研究センター
宮城県水産研究開発センター	北海道区水産研究所
福島県水産試験場	東北区水産研究所八戸支所
茨城県水産試験場	日本海区水産研究所
千葉県水産研究センター	中央水産研究所
神奈川県水産総合研究所	中央水産研究所黒潮研究部
静岡県水産試験場	
三重県科学技術振興センター	
和歌山県農林水産総合技術センター	

平成15年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し(2003年7～9月)

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、大畑～道南海域、道東～根室海峡周辺海域

対象漁業：いか釣り、底曳き、定置網

対象魚群：冬季発生系群(2003年級群)

魚体の大きさは外套背長で表示。

1. 常磐～三陸海域(いか釣り、底曳き、定置網)

(1) 来遊量：2002年並みかやや下回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場となる。

(3) 魚体：8月は20～23cmが主体。

2. 大畑～道南海域(いか釣り、定置網)

(1) 来遊量：2002年を下回り、1998年を上回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場となる。

(3) 魚体：8月は19～22cmが主体。

3. 道東～根室海峡周辺海域(いか釣り、定置網)

(1) 来遊量：2002年並み。

(2) 漁期・漁場：道東海域の漁場形成は8月以降で、平年より遅れる。

根室海峡周辺海域の漁場形成は10月以降になる。

(3) 魚体：8月は20～22cmが主体。

漁況の経過(2003年4～6月)および見通しについての説明

(1) 資源状態

太平洋海域で漁獲されるスルメイカは冬季発生系群を主体にし、それに秋季発生系群の一部が含まれると考えられている。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から推測すると、1970～1980年代の低水準期から1989年以降増加に転じ、最近10年間では1996年(漁獲量：276,249ト)が最も資源水準の高い年となった。近年の資源水準も年により増減は大きいですが、1992年以降は中位水準で推移していると考えられる。2002年7～9月の常磐以北太平洋海域の漁獲量(生鮮)

は 50,498 トンであり、2001 年同期 (44,889 トン) を上回った。

(2) 関連調査結果

A : 第 1 次漁場一斉調査

- ・いか釣りによる漁獲試験結果：6 月上旬～6 月下旬に実施された一斉調査結果(釣り)によると、平均 CPUE(釣り機 1 台 1 時間当り漁獲尾数)は沿岸域 (38° N 以北、144° E 以西)では 0.7 であり、2002 年(1.8)を下回った。沖合域(38° ~ 42° N、144° ~ 154° E)では 0.9 であり、2002 年(0.6)をやや上回った。全水域では 0.8 となり、2002 年(1.1)を下回り、1998 年以降の平均(1.3)の 63%と低い水準であった。CPUE が高い地点は北海道日高沿岸と東経 150 度以東の沖合域に限定され、これら以外の海域の CPUE は平均して低い水準であった。
- ・中層トロールによる漁獲試験結果：5 月上旬～下旬に常磐～三陸沖合域で実施された幼体漁獲試験の結果、外套背長 3cm 以上のスルメイカの平均採集尾数は 60 尾であり、2002 年(58)並であった。分布の中心は東経 150 度以東の沖合側にあった。

B : その他関連調査

- ・日本海における一斉調査結果：日本海で 6～7 月に実施された一斉調査において、津軽海峡西口周辺海域(39° ~ 42° N、138° ~ 140° E)における平均 CPUE は 11.7 であり、2002 年(14.3)を下回り、1998 年(12.5)並みの水準であった。
- ・岩手県沿岸域におけるスルメイカ漁獲試験結果：6 月中下旬に岩手県沿岸域で実施されたいか釣り調査によると、2003 年の平均 CPUE は 0.5 であり、2002 年(2.5)を下回り、1998 年以降最低の水準であった。

(3) 2003 年の各海域の漁況経過 (主に 4～6 月)

- ・本州南方・四国海域：高知県沿岸での釣りによる 5～6 月の漁獲量(14 トン)は、2002 年(26 トン)を下回った。和歌山県沿岸での釣りによる 5～6 月の漁獲量(20 トン)は、2002 年(47 トン)を下回った。三重県沿岸での釣りによる 5～6 月の漁獲量(26 トン)は 2002 年(99 トン)を下回った。静岡県沿岸での釣りによる 5～6 月の漁獲量(23 トン)は 2002 年(41 トン)を下回った。神奈川県沿岸での釣りによる 5～6 月の漁獲量(2 トン)は、2002 年(2 トン)とほぼ同じ水準であったが、CPUE は前年を下回った。
- ・房総・常磐南部海域：千葉県沿岸での釣りによる 5～6 月の漁獲量(2 トン)は、2002 年(17 トン)を下回った。茨城県沿岸での底曳きによる 4～6 月の漁獲量(69 トン)は 2002 年(95 トン)を下回った。
- ・常磐北部・三陸海域：福島県沿岸での底曳きによる 5 月の漁獲量(51 トン)は、2002

年（28 ト）を上回った。宮城県沿岸での底曳きによる漁獲量（3,186 ト）は 2002 年（2,005 ト）を大きく上回ったが、釣りによる漁獲量（178 ト）は 2002 年（238 ト）を下回った。岩手県沿岸での釣りおよび定置網による漁獲量（35 ト、510 ト）は、ともに 2002 年（22 ト、177 ト）を上回った。青森県沿岸では、八戸および白糠沿岸の釣りによる漁獲量（1 ト、23 ト）は、ともに 2002 年（99 ト、151 ト）を大きく下回った。

- ・大畑・道南海域：大畑近海での釣りによる 6 月の漁獲量（漁獲なし）は、2002 年（13 ト）を下回っている。一方、函館港での釣りによる漁獲量と CPUE（140 ト、268kg/隻）は、ともに 2002 年（466 ト、303kg/隻）を下回った。
- ・道東海域：道東近海での釣りの初漁はまだである（2002 年は 8 月 29 日）。

（4）魚体の大きさ

- ・6 月の漁場一斉調査（いか釣り）で漁獲されたスルメイカ的全調査地点の外殻長組成はモードが 17cm にある単峰型の組成であった。2002 年と比較すると、モードで 1cm 大きく、12 ~ 13cm の小型個体の割合が低くなっていた。海域別では三陸近海がモード 15、18cm（2002 年：13、16cm）、津軽海峡周辺海域がモード 16cm（2002 年：16cm）、沖合域がモード 17cm（2002 年：18cm）であった。
- ・宮城県沿岸で 6 月下旬に底曳きで漁獲されたスルメイカのモードは 19 ~ 21cm であり 2002 年とほぼ同じであった。岩手県沿岸で 7 月上旬にいか釣り調査で漁獲されたスルメイカのモードは 20 ~ 21cm であった。

（5）今後の見通しの説明

- ・漁場一斉調査結果および関連調査結果から、太平洋を北上するスルメイカ冬季発生群の資源水準を近 5 年間で比較すると、2002 年を下回り 1999 年を上回る水準と推測される。
- ・常磐～三陸沿岸域での漁獲対象資源は沿岸域を北上する群が主体であり、これに津軽海峡から加入する日本海由来の群れが加わると推定されている。三陸近海および津軽海峡周辺海域における調査結果から、三陸周辺海域に來遊するスルメイカの資源水準は 2002 年を下回ると推測される。しかし、6 月までの漁獲状況を比較すると、岩手県、宮城県では 2002 年を大きく上回る漁獲があった。この漁獲物の外殻長モードを比較すると一斉調査のモードより 1 ~ 3 cm 大きいことから、一斉調査で漁獲された群とは発生時期が異なる群が沿岸域で漁獲された可能性が高いと考えられる。現在、漁獲の中心となっている群の資源水準は 2002 年の集団より大きいと推測されるが、今後加入する太平洋北上群の資源水準が 2002 年を下回ると考えられるため、7 ~ 9 月の三陸海域の來遊水準は昨年並みかやや下回る

と推測される。

- ・大畑～道南海域での漁獲対象資源は、津軽海峡から加入する日本海由来の群と太平洋を北上する群である。太平洋および日本海で実施された一斉調査結果から、津軽海峡内、海峡出口周辺ともスルメイカの資源水準は 2002 年を下回り 1998 年をやや上回る水準と推測される。
- ・道東～根室海峡周辺海域に来遊するスルメイカは、太平洋沖合を北上する群と推定される。沖合域での調査結果から、太平洋沖合域に分布するスルメイカの資源水準は 2002 年並みかやや上回る水準と推定される。しかし、2003 年は親潮の勢力が 2002 年と同様に強く、道東沿岸域への北上回遊が平年よりも遅れると予想される。以上のことから、7～9 月における来遊水準は 2002 年並みと推測される。

本邦北部太平洋でのスルメイカ漁獲量(7～9月)
(釣り・定置・底曳・まき網、生鮮、ト)

年	常磐・三陸	大畑・道南	道東・羅臼	合計
1991	7,957	8,201	16,631	32,788
1992	20,536	20,932	9,858	51,325
1993	16,241	20,196	2,612	39,049
1994	24,646	20,348	5,064	50,058
1995	34,334	14,941	3,463	52,738
1996	73,062	30,662	11,441	115,165
1997	28,831	29,081	4,031	61,942
1998	9,750	6,846	2,723	19,319
1999	23,730	10,912	963	35,604
2000	37,481	11,845	7,125	56,451
2001	23,955	15,519	5,414	44,889
2002	37,051	12,430	1,017	50,498